

# 平成28年度 デイサービス部門 事業計画

## 基本方針

高齢化社会の中、在宅高齢者の支援拠点、また地域福祉の担い手としてデイサービスの果たすべき役割の自覚を持ち、「主役は利用者」であることを絶えず意識した、常に利用者の立場に立つ質の高い真のサービス提供を目指すとともに、ご利用者へのサービスを通して職員自身が喜びや感動を持つといった、高い利用者満足と職員満足を生み出す好循環の組織を創り出していくことを基本方針とする。

## 重点目標

### ①利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化

ご利用者が住み慣れた地域で、より自律的な生活を可能な限り自立して安らかに営むことが出来るよう、ご利用者個人の有する能力・可能性を尊重し、一人ひとりのニーズに合わせたサービスを提供するとともに、ご家族やケアマネージャー、主治医や他事業所等の関係機関、また地域の方々と連携して支援を行う。

### ②組織内の連携の強化及びサービス内容の充実

ご利用者と関わる時間を大切に、ご利用者が安全に、また安心して過ごせ、「楽しかった」「また来たい」と思ってもらえる時間作りを目指すとともにご家族に信頼して頂ける組織作りを目指す。

1. 日々のミーティング・職員会議の充実・見直しを適宜行い、職員間のコミュニケーション・連携の強化を図るとともに職員間における他職種のチームでご利用者のケア向上を目指す。

#### 2. 機能訓練の充実

機能訓練のミーティングを充実させ、ご利用者個人ごとの日常動作の把握と具体的な生活目標の設定を行い、その実現に向けて他職種協働で機能訓練を計画し実施する。また、生活機能向上プログラム等機能訓練充実のための勉強会等を行う。(外部研修への参加も奨励)

#### 3. アクティビティ(集団でのレクリエーションや創作等の機能訓練活動)の充実

- ・ 個々のご利用者のニーズに合わせたもの、またデイサービスを利用される方全体の関わりと達成感を感じられるレクリエーションのプログラムを企画し、実践する。
- ・ 1年を通じ、ご利用者に喜ばれる外出を企画、実践する。(花見外出等)
- ・ ご利用者の心身機能の活性化を図るため、2階ホールでのイベントや施設内の資源等を積極的に活用してゆくプログラムを立て実践する。

#### 4. 相談機関の充実

ご利用者とご家族の関係を総合的に考え、家族の身体的並びに精神的負担の軽減を図ることも重要な課題と認識し、ご利用者本人のみならずご家族の介護(生活)相談についても、生活相談員をはじめとする職員を配置し随時受付可能な体制をとる。

### ③職員の資質向上

職員の資質向上のため、継続した育成と系統的内容の指導で、職員の質の向上を図る。

1. プロ意識を持った言葉遣い、気遣いを心がけるとともに、さわやかな笑顔と“心”のこもった接遇対応に努める。
2. 専門職としての資質向上を目指し、ご利用者へより良いサービスを提供する。
  - ・ ヒヤリ・ハットや事故報告を通じて介助技術の振り返り、見直しを行うとともに報告を生かした研修を行う。
  - ・ 職員のアセスメント力を磨き、サービス提供の質を高めていく。  
(ご利用者の声や表情、動作から真のニーズを探り、望む生活への支援やリスクの回避を図る)
  - ・ 相談業務に係る職員への研修(主任による研修や外部研修)を行い、スキルアップを図る。

### ④地域社会へのアプローチの強化

地域社会の一員として福祉の実情を捉え、地域福祉のニーズの掘り起こしを行い、その繋ぎ手、担い手となるよう努める。(出張体操、地域の活動・行事への積極的参加等)

### ⑤環境整備

ハード面の修繕・買い替えの計画を立てて修繕・購入を進めていく。

### ⑤その他

- ・ 後継者育成のため学生実習(社会福祉士)の受け入れを積極的に行う。

## 学生実習の意義

### 1. 福祉教育の推進

福祉を担う後継者を育て、福祉を継続性のあるものにするためにも実習は大切であり、学校で学んだ理論・知識を実践の場において具体的に身につけることで、理論との整合が可能になる。また実習を通して福祉への理解を深め、地域社会における福祉理解の核となっていって頂けるよう期待する。

### 2. 施設の再点検

実習生の新しい目や感覚で見つめることにより職員の気がつかない課題の発見につなげる。

デイサービス部門主任：濱田 美穂子